

会社概要

|           |                                                                                                                                        |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会社名       | メタウォーター株式会社                                                                                                                            |
| 英文社名      | METAWATER Co., Ltd.                                                                                                                    |
| 本社所在地     | 〒101-0041<br>東京都千代田区神田須田町一丁目25番地<br>JR神田万世橋ビル                                                                                          |
| 設立        | 2008年4月1日                                                                                                                              |
| 上場証券取引所   | 東京証券取引所市場第一部                                                                                                                           |
| 業種別分類／コード | 電気・ガス業／9551                                                                                                                            |
| 主な事業内容    | 浄水場・下水処理場・ごみ処理施設向け設備等の設計・建設、各種機器類の設計・製造・販売、補修工事、運転管理等の各種サービスの提供                                                                        |
| 従業員数      | 2,889人 ※2017年3月31日現在、連結                                                                                                                |
| 主要グループ会社  | メタウォーターサービス株式会社<br>METAWATER USA, INC.<br>Aqua-Aerobic Systems, Inc.<br>メタウォーターテック株式会社<br>株式会社エス・アイ・シー<br>鳥電商事株式会社<br>株式会社あけぼのエンジニアリング |

取締役・監査役 (2017年9月30日現在) 執行役員 (2017年9月30日現在)

|         |        |        |        |
|---------|--------|--------|--------|
| 代表取締役社長 | 中村 靖   | 執行役社長  | 中村 靖   |
| 取締役     | 福島 一郎  | 執行役員専務 | 福島 一郎  |
| 取締役     | 加藤 明   | 執行役員専務 | 加藤 明   |
| 取締役     | 西尾 晃   | 執行役員常務 | 西尾 晃   |
| 社外取締役   | 坂部 進   | 執行役員常務 | 奥田 昇   |
| 社外取締役   | 松村 基史  | 執行役員   | 清水 誠   |
| 社外取締役   | 末 啓一郎  | 執行役員   | 酒井 雅史  |
| 社外取締役   | 相澤 馨   | 執行役員   | 初又 繁   |
| 社外取締役   | 小埜 ふみ子 | 執行役員   | 中村 英二  |
| 常勤監査役   | 伊藤 隆司  | 執行役員   | 山口 賢二  |
| 常勤監査役   | 加藤 昌彦  | 執行役員   | 藤井 泉智夫 |
| 社外監査役   | 植村 公彦  | 執行役員   | 田畑 雅郎  |
| 社外監査役   | 瀧本 和男  | 執行役員   | 高木 雅宏  |
|         |        | 執行役員   | 中川 雅幸  |

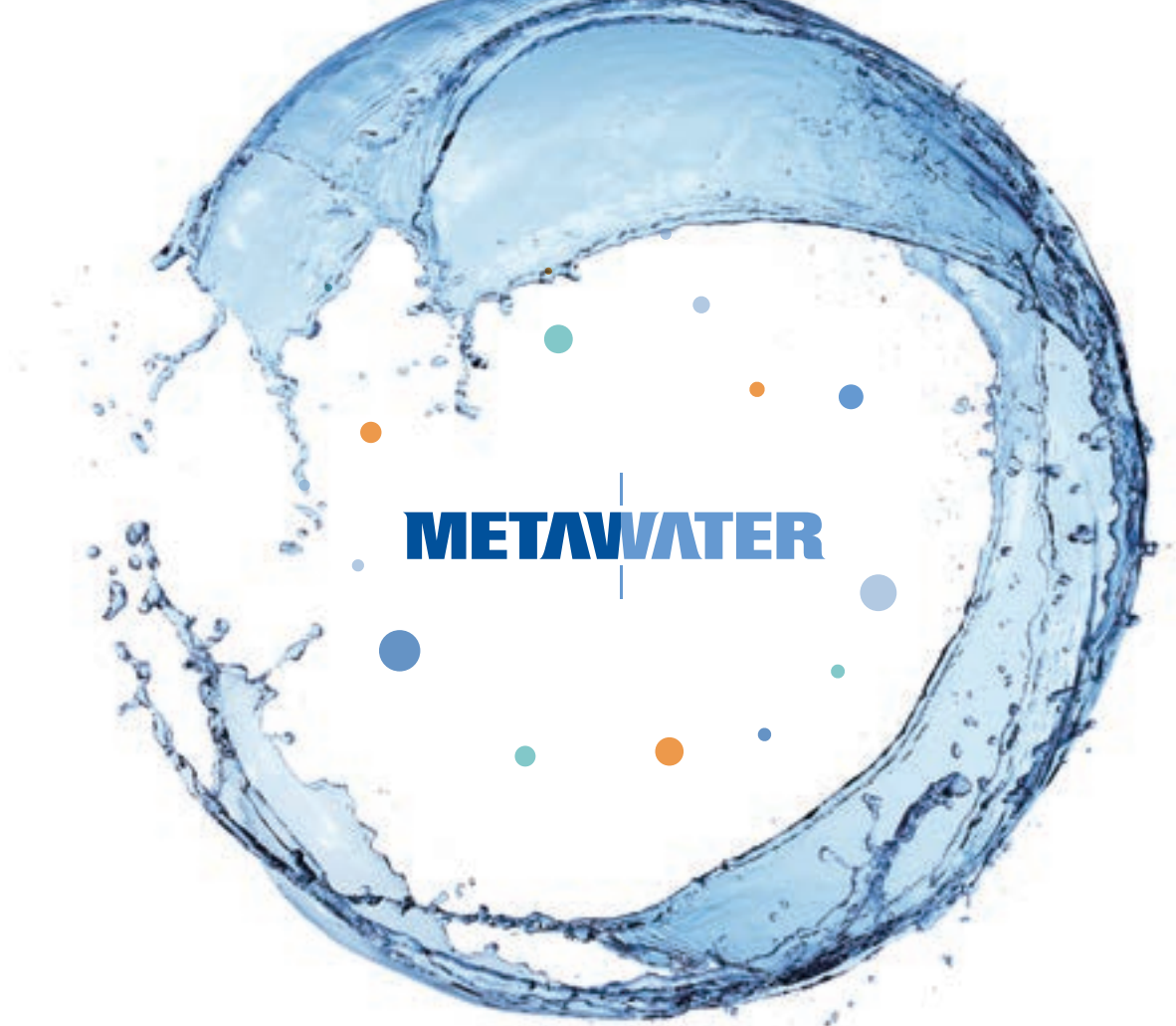
大株主（上位10名） (2017年9月30日現在)

| 株主名                         | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|-----------------------------|---------|---------|
| 日本碍子株式会社                    | 7,500   | 28.93   |
| 富士電機株式会社                    | 7,500   | 28.93   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)  | 1,361   | 5.25    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)    | 1,139   | 4.39    |
| JP MORGAN CHASE BANK 385632 | 1,107   | 4.27    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9) | 557     | 2.15    |
| 野村信託銀行株式会社 (投信口)            | 311     | 1.20    |
| GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL | 245     | 0.94    |
| GOVERNMENT OF NORWAY        | 238     | 0.92    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5) | 209     | 0.80    |

| 株主メモ               |                                                                                               |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 事業年度             | 毎年4月1日から翌年3月31日まで                                                                             |
| ● 基準日              | 定時株主総会の議決権 3月31日<br>期末配当 3月31日<br>中間配当 9月30日<br>その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して臨時に定めることがあります。 |
| ● 単元株式数            | 100株                                                                                          |
| ● 株主名簿管理人兼特別口座管理機関 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社                                                               |
| ● 同事務取扱場所          | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部                                                       |
| ● 公告方法             | 電子公告<br>当社のホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。        |



第45期 中間株主通信



メタウォーター株式会社

www.metawater.co.jp



メタウォーター株式会社

証券コード 9551

# まちと向き合い、 人と技術で、水・資源の循環を支える。

あの町が、この街が必要とする「水インフラ」があります。  
私たちは、それぞれのまちが抱える課題に向き合い、  
人と技術によるトータルソリューションで、  
水・資源の循環を次世代に継承していきます。

## 企業理念 Philosophy

水は地球にとってかけがえのない資源。  
「限りある水」  
その循環を創り出すことは、明日の地球を支えることです。

私たちは、先進のコア技術を活かしたエンジニアリング企業として  
「水資源の最適解」を提供します。

いつでも どこでも だれもが  
水と共に安心して生きることができる社会を願い  
たゆまぬ挑戦を続けていきます。

## 事業セグメント

当社グループは、「プラントエンジニアリング事業」と「サービスソリューション事業」の2つのセグメントに事業を大別し、約40ヵ所の営業・サービス拠点と国内外関係会社で事業を行っています。「プラントエンジニアリング事業」では、国内浄水場・下水処理場向けの機械設備や電気設備の設計・建設に加え、海外事業を担っています。「サービスソリューション事業」では、施設の運営や設備の運転・維持管理（保守・点検）、補修工事に加え、PPP（公民連携）事業、ごみ処理施設向け設備の設計・建設を行う資源環境事業を担っています。

## 成長戦略

上下水道事業体の財政難や技術者不足を背景に事業運営の効率化が求められる中、国内ではPPP事業を成長分野と位置づけ、包括化と広域化に対応しながら、事業拡大に注力しています。また、海外事業をもう一つの成長分野と位置づけ、欧米を中心に事業拡大に取り組むとともに、アジア・その他地域では政府開発援助（ODA）の活用など、地域のニーズに合わせた取り組みを推進しています。

## 機械+電気+維持管理+ICT<sup>※</sup>で水・環境インフラを支えます。

当社グループは、機械技術と電気技術を併せ持つ数少ない水・環境インフラ企業です。水や汚泥を処理するための機械設備、それらに電気を供給し、監視・制御するための電気設備、長年かけて培ってきた維持管理ノウハウ、先進のICTによるクラウドサービスを生かし、設計・建設から維持管理まで全体最適な事業運営を提案しています。

※ICT (Information and Communication Technology)・・・コンピュータやインターネットに関連する情報通信技術

| 当社の強み | 機械技術                                                                                                  | 電気技術                                                                                            | 維持管理ノウハウ+ICT                                                                          |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <br>セラミック膜ろ過システム | <br>受変電設備  |  |
|       | <br>オゾン処理システム    | <br>監視制御設備 |                                                                                       |
|       | <br>高速ろ過システム     | <br>燃料電池   |  |

# 自治体、地域、 パートナー企業とともに 水・環境インフラを支え、 循環型社会に寄与します。

代表取締役社長  
中村 靖



## Q 日本の上下水道事業を取り巻く環境は？

A 施設・設備の老朽化が進み、上下水道事業を運営する各自治体では財政難と施設を運営する技術者不足に直面しています。

上下水道は人々の生活や産業になくてはならないライフラインですが、高度経済成長期につくられた施設・設備の老朽化が進み、上下水道事業を計画・運営する事業体は人口減少などによる財政難や技術者不足に直面しています。

こうした課題に対処するため、公民連携（PPP）による事業運営の包括化や広域化が求められており、それにとまって民間企業の役割が拡大しつつあります。

当社グループは、日本で最初の水・環境分野における総合エンジニアリング企業として2008年に発足しました。以来、水資源の循環を創り出す最適解を提供するという企業理念のもと、国内外の水道、下水道、資源環境の各分野で事業を展開し、2014年12月、東京証券取引所市場第一部に上場し、電気・ガス同様のライフラインである水・環境インフラを担う企業として、初めて「電気・ガス業」に分類されました。

## Q メタウォーターの強みは？

A 機械+電気+維持管理+ICTで  
水・環境インフラを支えます。

当社グループは、機械技術と電気技術を併せ持つ、数少ない水・環境インフラ企業です。加えて、豊富な実績を通じて培ってきた維持管理ノウハウや、先進のICTを持つことが強みです。機械技術と電気技術を融合し、省エネ・創エネ技術を加えることにより、環境配慮型のプラントを設計・建設しています。また、維持管理ノウハウを生かすことにより、設計・建設から維持管理まで全体最適な事業運営を提案しています。

事業運営の包括化、広域化が進むにつれて、地域企業やパートナー企業とリアルタイムで情報を共有化するため、ICTがますます重要になります。当社の「Water Business Cloud（WBC）」は、こうした状況を見据えて2011年に立ち上げたクラウドサービスで、日々の点検業務の効率化を図るだけでなく、蓄積されるデータを分析・活用することで、より効率的で質の高い水・環境インフラの実現に貢献するものです。

これまで以上に、お客様の期待に応え、社会から信頼される企業となるため、あらためて「お客様第一主義」を徹底し、お客様の要望や課題を当社独自の「機械技術+電気技術+維持管理ノウハウ+ICT」で解決することに全力を尽くしてまいります。

## Q メタウォーターのESGの取り組みは？

A 事業活動を通じた社会貢献にとどまらず、  
地域貢献や環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

水インフラは、飲み水をつくり、供給して終わるものではありません。使って汚れた水は雨水とともに処理をして自然に還し、循環させる必要があります。

当社グループは、それを支える事業活動を通じた社会貢献にとどまらず、企業市民としての社会貢献活動や環境保全

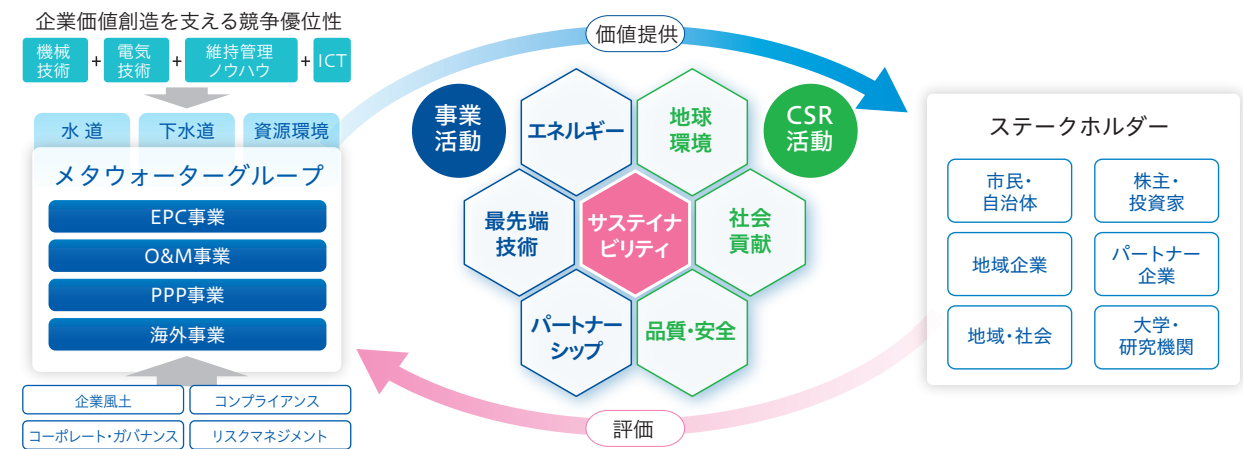
活動にも積極的に取り組んでいます。また、道路、鉄道、港湾といった社会インフラのアセットマネジメントに関する国際規格認証（ISO55001）を水・環境インフラ企業として取得するなど、設計・建設だけでなく運転・維持管理も含めた品質・安全衛生にも最大限配慮しています。

加えて、経営体制の効率化と一層の強化を図るため、第44期定時株主総会での決議により、取締役数を10名から9名にし、9名中5名を社外取締役としました。これにより、信頼性・透明性の高い経営を目指すとともに、コンプライアンスの推進、内部統制機能の強化に努めてまいります。

あわせてディスクロージャーポリシーに則り、公正・公平・適時・適切に情報開示を行い、市民・自治体、株主・投資家、取引先、地域企業、パートナー企業をはじめとするステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを図ってまいります。

そして、皆様に信頼される企業を目指し、社会に貢献しながら継続的な事業拡大を遂げるため、たゆまぬ挑戦を続けてまいります。

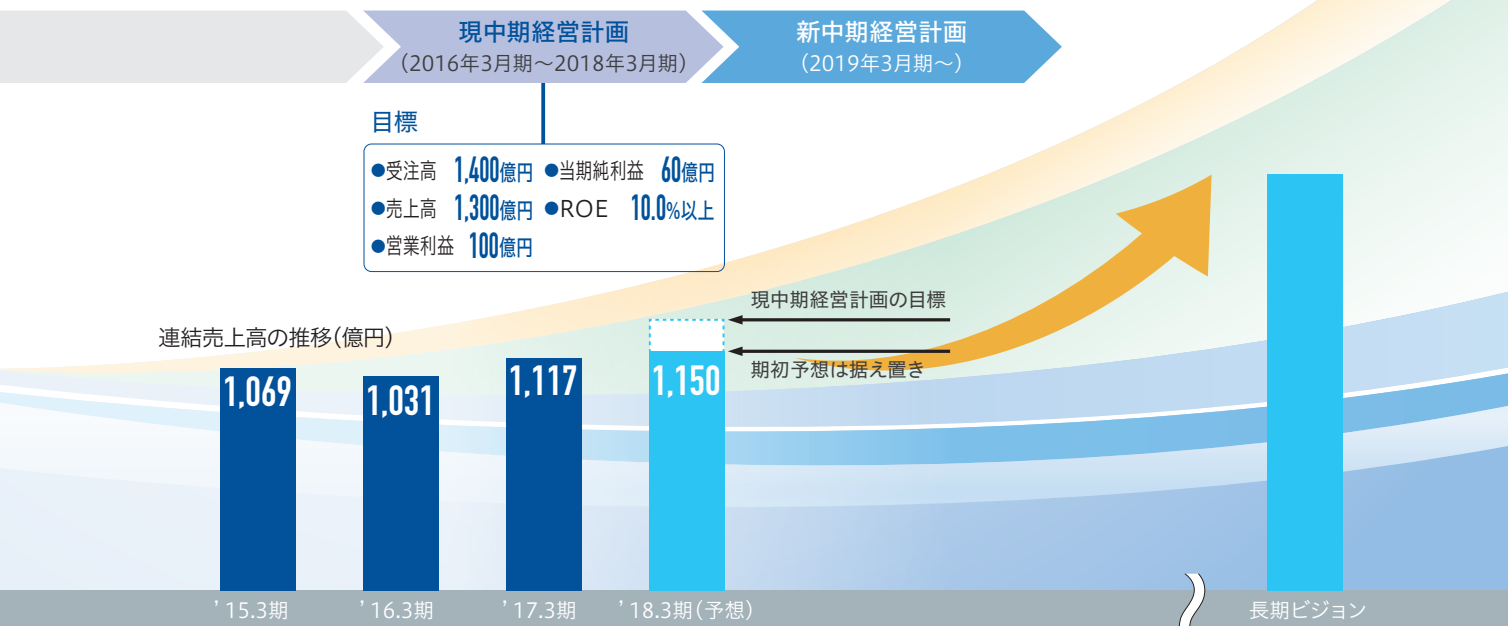
## 「サステナビリティ」（持続性）を核とした7つの経営視点に基づき、 4事業体制によりステークホルダーの皆様に価値を提供していきます。



# 長期ビジョンの実現に向けて

当社グループは、発足以来、業界トップクラスの業績を持続しています。2015年5月には、中期経営計画を策定し、事業拡大に取り組んできました。

PPPプロジェクトなど大型案件の増加により、受注から売上計上までの期間が長期化し、中期経営計画の達成は難しい状況となりましたが、受注は着実に積み上がっており、成長に向けた基盤固めは進展しています。基盤分野である国内EPC(施設・設備の設計・建設)事業と国内O&M(施設・設備の運転・維持管理)事業の強化、成長分野と位置付ける国内PPP(公民連携)事業と海外事業の拡大を図り、長期ビジョンの実現に取り組んでまいります。



## 2015年3月期以降のトピックス

### 2014年4月

月島機械グループの月島テクノメンテサー  
ビス㈱と当社グループのメタウォーターサー  
ビス㈱との共同出資により、薬品事業を担う  
ハイブリッドケミカル㈱を設立

### 2014年9月

上下水道施設の運転・維持管理を担うメタ  
ウォーターテック㈱を設立

### 2014年12月

東証一部上場

### 2015年4月

㈱NTTデータと上下水道事業向けサービス  
分野で協業を開始

### 2016年1月

米国水処理エンジニアリング会社である  
Aqua-Aerobic Systems, Inc.を完全子  
会社化

# 業績ハイライト

## 経営概況

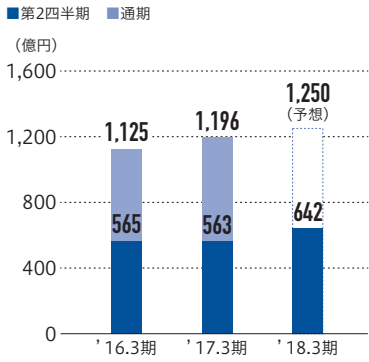
国内事業については、公民連携による民間活用が進展する中、戦略的提携や高付加価値技術・製品の開発とその拡販、全社にわたる収益改善の取り組みを推進しています。

海外事業においては、安定した市場成長が見込まれる欧米を中心とした事業展開を加速させ、米国では水処理エンジニアリング会社であるAqua-Aerobic Systems, Inc.(AAS社)を基盤とした事業拡大に取り組んでいます。

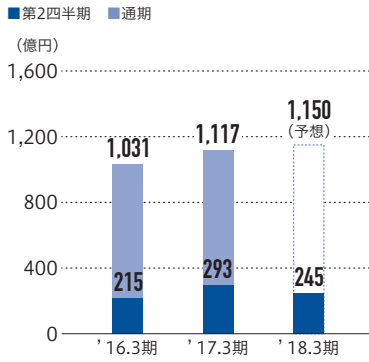
経営成績および主な財務状況は以下のとおりです。

## 主な経営指標(連結)

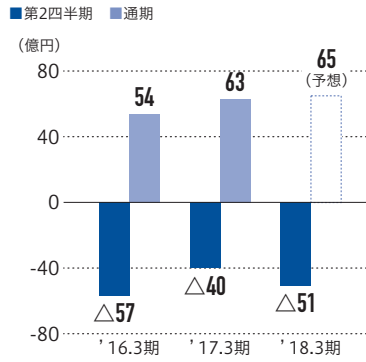
### 受注高



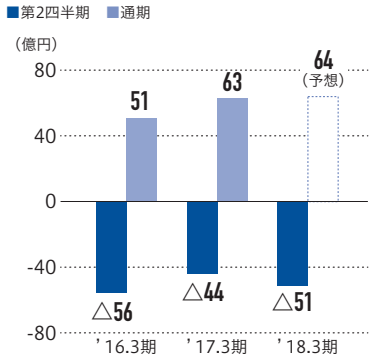
### 売上高



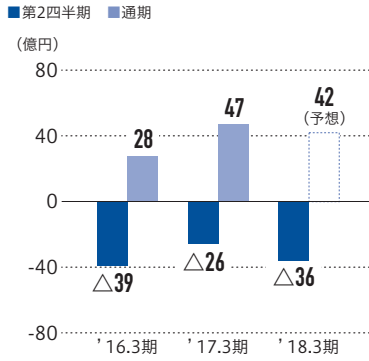
### 営業利益



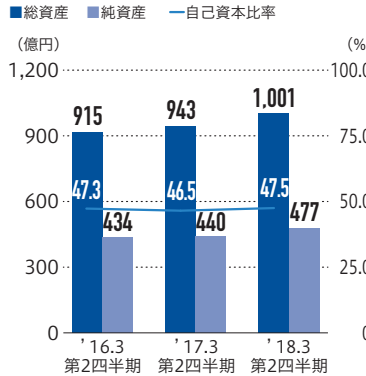
### 経常利益



### 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



### 総資産と純資産、自己資本比率



パートナーシップを軸に海外での事業拡大を目指して

成長分野と位置付ける海外事業では、市場規模が大きく、今後も市場成長が見込めるうえ、処理方法、処理水質の要求レベルの高い欧米での事業拡大を目指し、関係会社、戦略パートナーとの連携を軸に当社グループ独自技術の展開に取り組んでいます。

欧 州



欧州ではAAS社の子会社であるスイスのMECANA社や資本業務提携パートナーであるオランダのRWB社、オランダ水道公社の子会社であるPWNT社とのパートナーシップを軸に、マーケティング強化と当社製品の市場展開を図ります。

取り組み事例

オランダ アンダイク III 浄水場



設置されたPWNT社のセラミック膜ろ過システム

オランダ ヴィアデン浄水場



セラミック膜使用の砂ろ過逆洗排水処理設備

アジアおよびその他地域

アジアおよびその他地域では、低ライフサイクルコストの下水処理方法である前ろ過散水ろ床法（Pre-treated Tricking Filter法）や車載式セラミック膜ろ過システムなどの展開により、水質改善、生活・衛生環境改善、観光資源保全など、地域ニーズに合った事業展開を図ります。

取り組み事例

ベトナム ホイアン市 下水処理施設



車載式セラミック膜ろ過システム



出典：独立行政法人国際協力機構（JICA）・（株）日水コン  
ベトナム国 ホイアン市日本橋周辺水質改善計画準備調査報告書より

また、将来の大きな市場成長が見込まれる、アジアおよびその他地域では、当社グループが国内の上下水道事業で培った豊富な実績、技術、ノウハウを生かし、政府開発援助(ODA)などを活用して、地域ニーズに合わせた取り組みを推進していきます。

北 米



北米では、2016年1月に完全子会社化したAAS社を基盤に事業展開を図ります。  
AAS社は、三次処理向け布ろ過装置（クロスメディアフィルター）や、回分式下水処理装置、曝気・攪拌装置など、競争力の高い製品群およびその販売を担う全米規模の強い代理店網を有し、高い市場プレゼンスを獲得しています。  
当社グループは、経営リソースの提供を通じ、AAS社の事業拡大をサポートするとともに、AAS社の代理店網を通じて当社グループ主力製品（セラミック膜ろ過技術、オゾン発生技術）の全米展開を図ります。また、両社の技術・ノウハウの融合により、北米およびその他地域のニーズに合った、製品・ソリューションの開発に取り組めます。

経営リソース提供  
主力製品展開  
技術・製品開発



取り組み事例

アメリカ モンタナ州 ビュート浄水場



セラミック膜ろ過システム



三次処理向け布ろ過装置（クロスメディアフィルター）

|      |                                                   |
|------|---------------------------------------------------|
| 会社名  | Aqua-Aerobic Systems, Inc.<br>(アクア エアロビック システムズ社) |
| 所在地  | アメリカ イリノイ州                                        |
| 代表者  | Peter G. Baumann                                  |
| 事業概要 | 上下水道の水処理に関する<br>エンジニアリング事業およびサービス事業               |
| 創業   | 1969年5月                                           |



## 持続的かつ正しい企業運営の実現を目指して

当社グループは、リスクマネジメントとして、災害などが発生した際にできるだけ早く事業を復旧させるための事業継続マネジメント強化、信頼性、透明性ある経営を実現するためコーポレート・ガバナンス向上、さらに法令に遵守した事業活動を推進するためコンプライアンス強化に積極的に取り組んでいます。

これらの取り組みを通じて、従業員、顧客、その他の取引先、地域社会、株主、投資家などのステークホルダーの期待に応え、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業であることを目指しています。

### リスクマネジメント

#### 浄水場での事業継続計画(BCP)訓練

当社グループで運転・維持管理を受託している施設のBCPも順次策定しています。

2016年度、横浜市の川井浄水場「セラロック」では、策定したBCPIにもとづき、緊急事態に的確な行動ができるよう

訓練を実施しました。平日夜間や休日での大地震発生時に、現場での被害状況把握、復旧に向けた中央監視室への報告と指示への対応など、仮想現場での異常発生を設定し、実際の手順を確認しました。



現場とやり取りする中央監視室



仮想現場に確認に来た作業員が被災状況を確認し無線で状況を報告

#### 自治体の水道事業BCPを支える取り組み

当社が特別目的会社の代表企業を務める「あらおウォーターサービス(AWS)」は、熊本県荒尾市で水道事業などの包括委託による事業を展開しています。そこで荒尾市企業局がBCP運用訓練を実施するにあたり、AWSは1分1秒でも早く情報収集し、復旧に必要な経営資源(人や 重機・部品などのモノ)などを確保するため、ICTを活用してサポートを行いました。現地の情報(プラント監視画面・タイムライン・TODOリストなど)を本社(東京)、九州事務所(福岡)などでリアルタイムに共有することで、復旧にかかる時間の短縮を図り、「高速事後対応」の実現を目指しています。



現地(荒尾市)の情報を本社(東京)でリアルタイムに把握

### コーポレート・ガバナンス

#### 役員体制

◆**社外取締役が取締役会の過半数に**  
(取締役9名中5名が社外取締役)

経営体制の効率化を図るため、取締役の数を削減するとともに、経営体制の一層の強化を図るため独立性が高い社外取締役を1名増員しました。この結果、取締役は10名から9名となり、社外取締役は4名から5名となりました。

また、新たに選任した取締役は、ダイバーシティ経営の推進として初めての女性役員となります。

◆**独立役員(社外取締役)が取締役会の3分の1に**  
(取締役9名中3名が独立役員)

当社グループは、社外役員の独立性に関する基準を「コーポレート・ガバナンスに関する基本方針」において



第44期定時株主総会の模様

定めており、当該基準を満たす社外取締役を2名から3名とし、社外監査役2名とあわせて独立役員として指定し、東京証券取引所に届け出しています。

### コンプライアンス

#### コンプライアンス教育

当社グループでは、全国の拠点で実施する全社教育、全社e-ラーニング、役員向け教育や階層別教育など座学形式での教育を実施しています。2016～2017年度の2カ

年をかけて、内部統制、J-SOXおよび適時開示をテーマに、全社教育を全国の拠点で実施しています。

これらのテーマ選定のねらいは、2014年度の上場とともにステークホルダーとの関わりが一層広がったことを踏まえ、内部統制やJ-SOXの意義や仕組みを再確認すること、また、上場時に実施したインサイダー取引防止教育が一巡し、次のステップとして会社からの情報開示のあり方について周知することです。今回の全社教育は、管理職を主な受講対象として、初年度である2016年度は、6カ所で計12回開催し、のべ521名の社員が参加しました。



本社で開催した全社教育